

若者・地域移動・くらし向き —5年間追跡調査から—

片山 悠樹（愛知教育大学）

1

簡単な前提

●「地方」への社会的関心

→「ストップ少子化・地方元気戦略」(「増田レポート」)

「地方消滅」(「消滅可能性都市」リスト)

地域対策と人口政策の関連(「東京一極集中の是正」と少子化問題)

「選択と集中」

「若者にとって魅力のある雇用機会」の創出

→「地元」に残り、結婚・出産(増田編2014、増田・富山2015)

●ひとつの批判

結婚・出産

=「暮らしの余裕」／「未来に対する安心感」の必要性(山下2014)

→「選択と集中」の議論にはこの観点が不十分??

簡単な前提

●移行リスク社会における結婚

「戦後日本型循環モデル」(本田2014) / 「戦後的青年期」(乾2000)

「スムーズな就職」というしくみ / 「安定した未来」という実感

1990年代以降・・・崩壊 / 解体

＝経済的展望の不確実化

→家族形成＝大きなリスク(山田2005、佐々木2012)

●課題

若者のくらし向き(現在－将来)と結婚の見通し

→地域 / 地域移動による違い

cf. 初婚率 / 出生率の低下(岩澤2008、筒井2015)

婚外出生率が極端に低い日本

→未婚化 / 晩婚化が少子化の直接的要因

報告の流れ

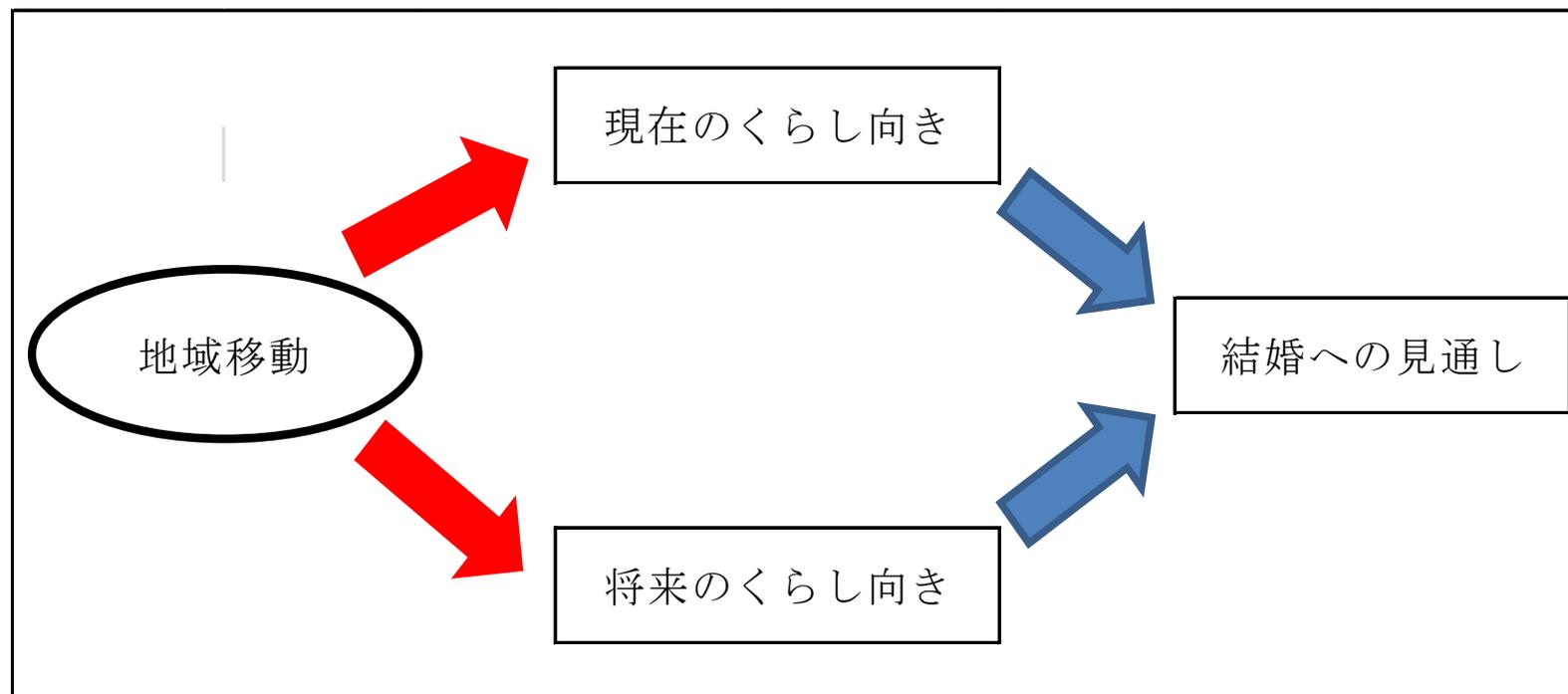
- 地域移動者／定住者の概要

家庭背景、学歴、雇用状況 etc.

- 25歳時の暮らし向き(現在－将来)と結婚の見通しの関係(＝青)

- 地域移動と暮らし向き(現在－将来)の関係の変化(＝赤)

図1 報告の流れ



データ

『若者の教育とキャリア形成に関する調査

Youth Cohort Study of Japan』(研究代表:乾彰夫)

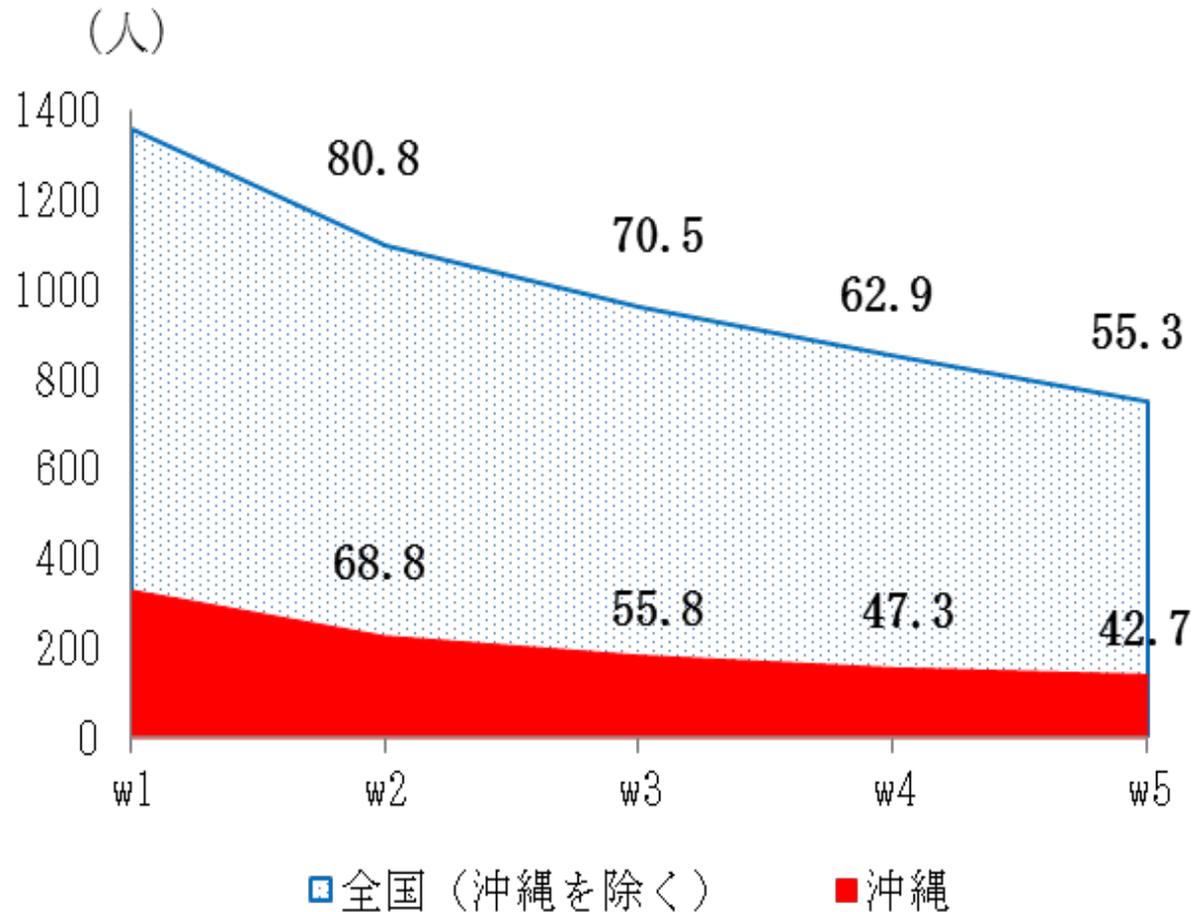
調査対象:2007年4月1日時点で20歳の男女

表1 調査概要と回収状況

	w1	w2	w3	w4	w5
対象者年齢	20/21歳	21/22歳	22/23歳	23/24歳	24/25歳
調査時期	2007年10~12月	2008年10~12月	2009年10~12月	2010年10~12月	2011年10月~12月
有効回答数 (有効回答率) 全国 (沖縄を除く)	1357	1097 (83.5)	957 (87.2)	853 (91.0)	750 (91.8)
有効回答数 (有効回答率) 沖縄	330	227 (75.7)	184 (81.1)	156 (89.1)	141 (91.6)

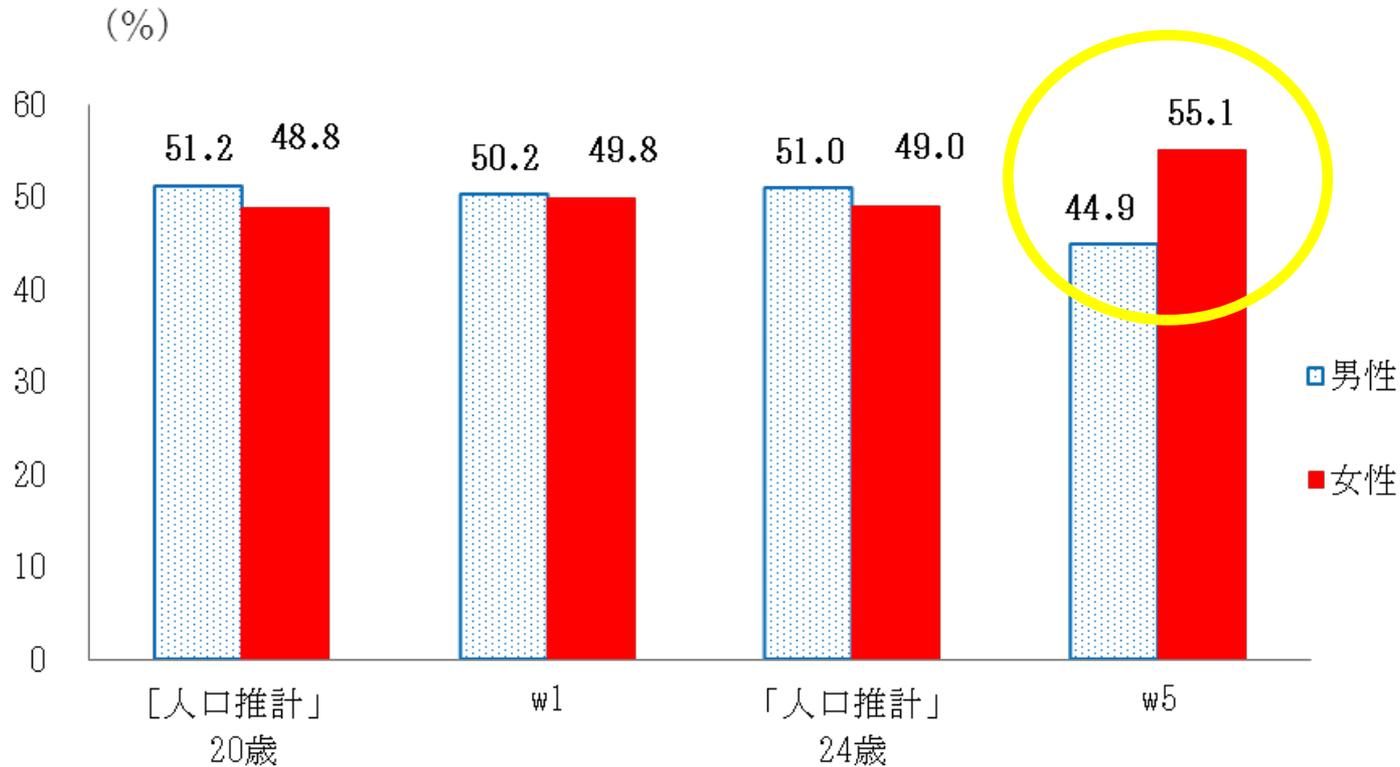
データ

図2 「脱落」状況



データ

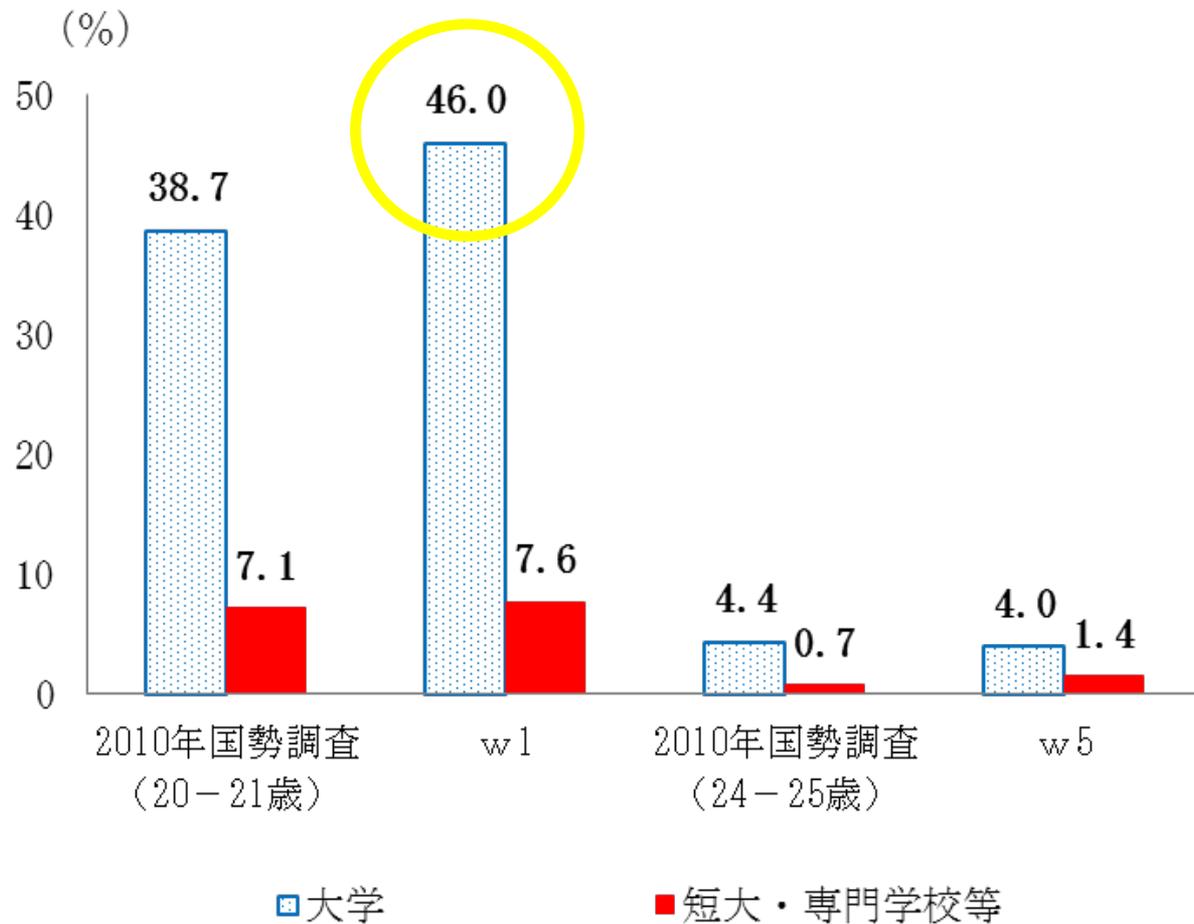
図3 全国統計との比較(性別)



調査データについては、沖縄のデータに人口に応じたウェイトをつけた
図4～図6も同様

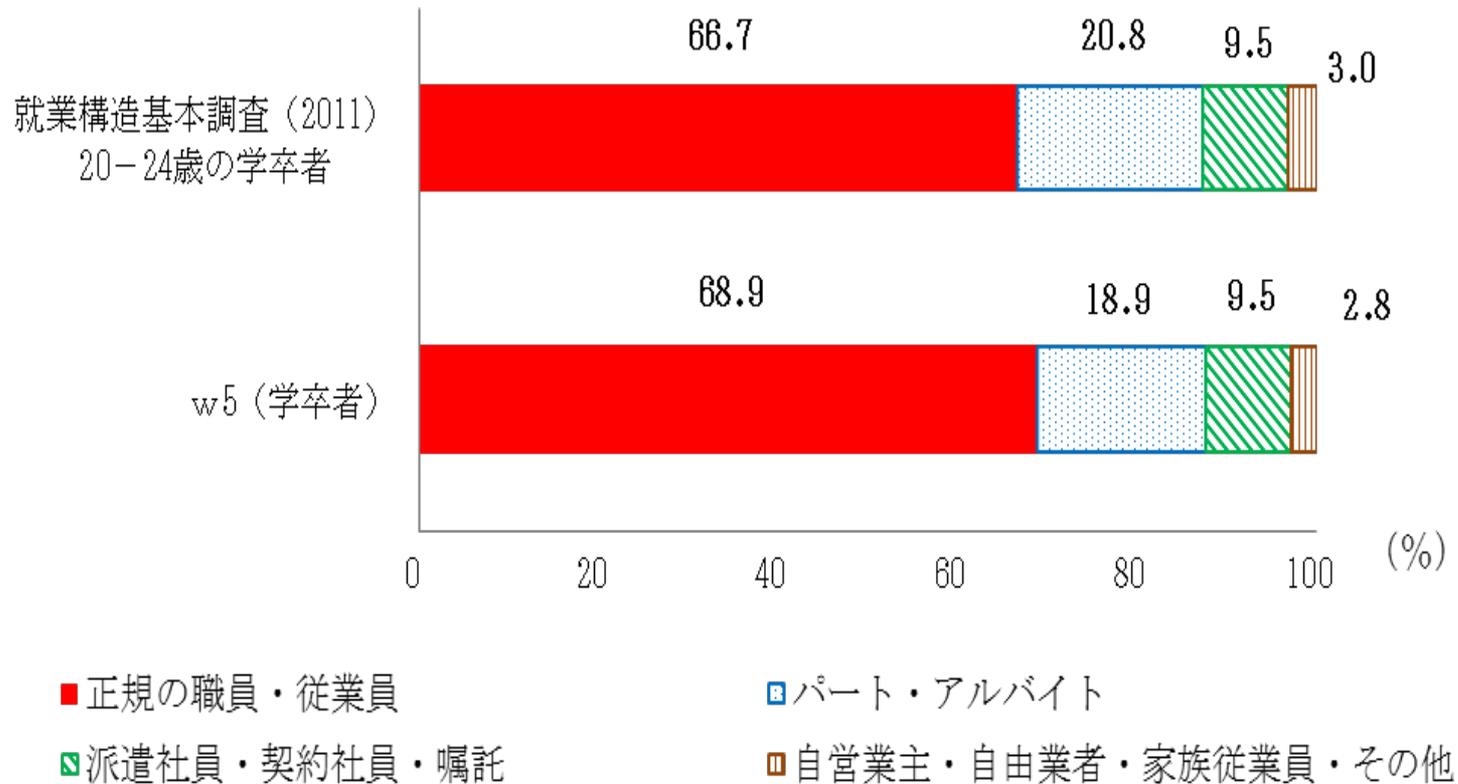
データ

図4 全国統計との比較(学歴)



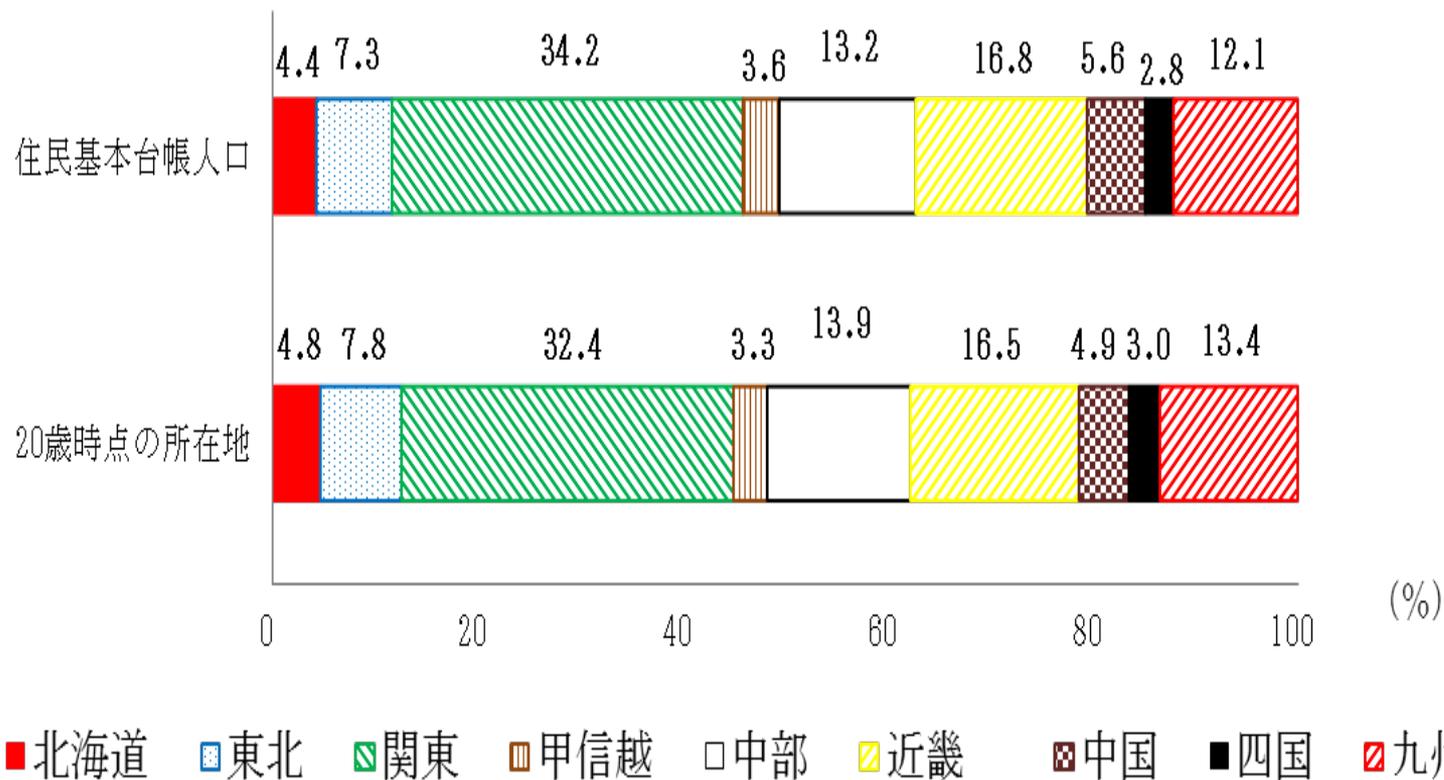
データ

図5 全国統計との比較(雇用)



データ

図6 全国統計との比較(地域)



分析サンプル

分析サンプル=655人

- w2～w5の暮らし向き(現在)

「現在のあなたのお宅の暮らし向きは、この中のどれにあたるでしょうか。」

4:ゆとりがある 3:ややゆとりがある 2:やや苦しい 1:苦しい

- w2～w5の暮らし向き(将来)

「あなたは10年後、どのような働き方・暮らし方をしていると思いますか。」

今より経済的に余裕がある.

4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

→これらすべて回答

- 沖縄を除く

地域移動者と定住者

図7 地域移動類型

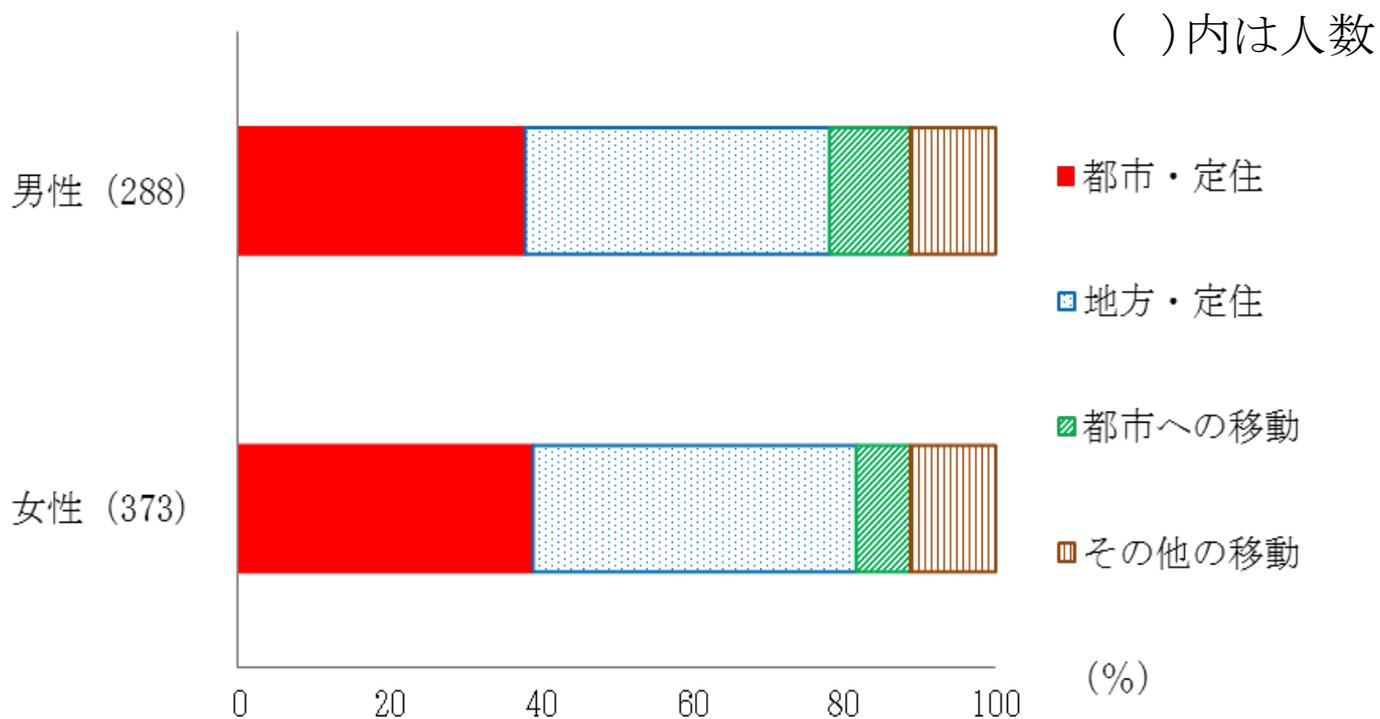
		18歳以降の県外移動経験		
		なし	あり	
			移動先：都市	移動先：地方
18歳時の 居住地域	地方	地方・定住	都市への移動 (名古屋→東京なども含む)	その他の移動 (Uターン/地方間移動)
	都市	都市・定住	その他の移動 (Uターン/都市間移動)	その他の移動 (Uターン/地方への移動)

※都市＝東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、京都、大阪、兵庫

※移動経験＝都道府県間の移動

地域移動者と定住者

図8 性別×地域移動

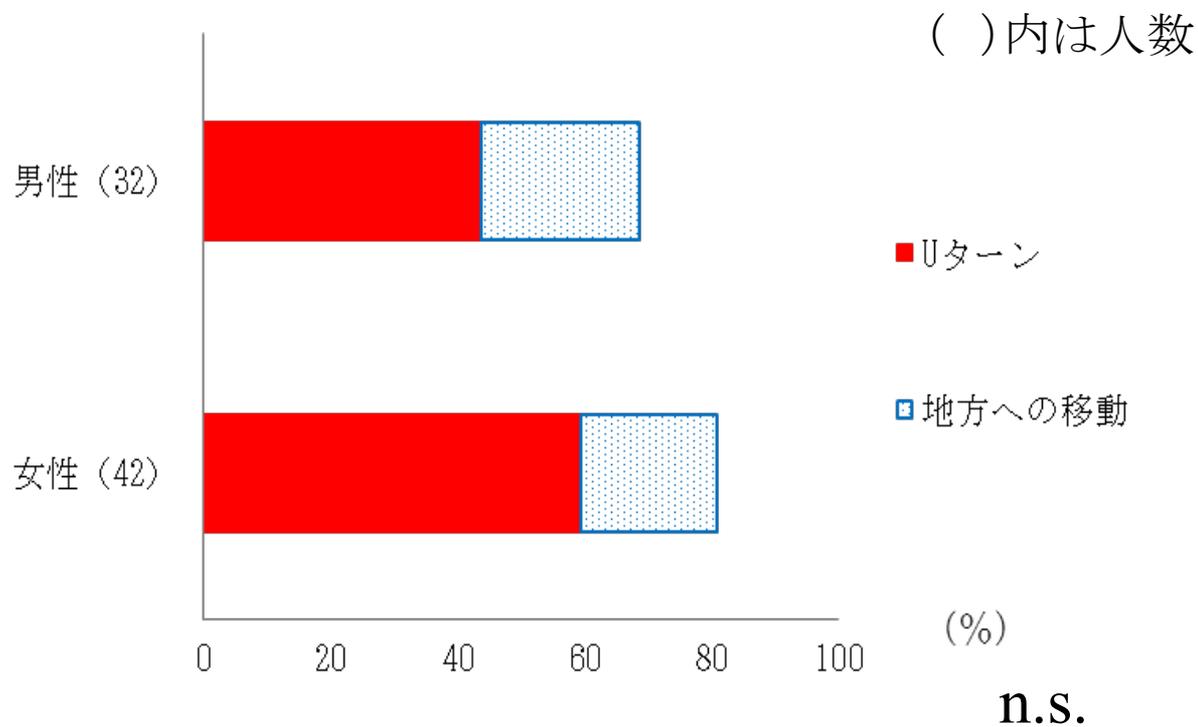


n.s.

性別による顕著な違いなし

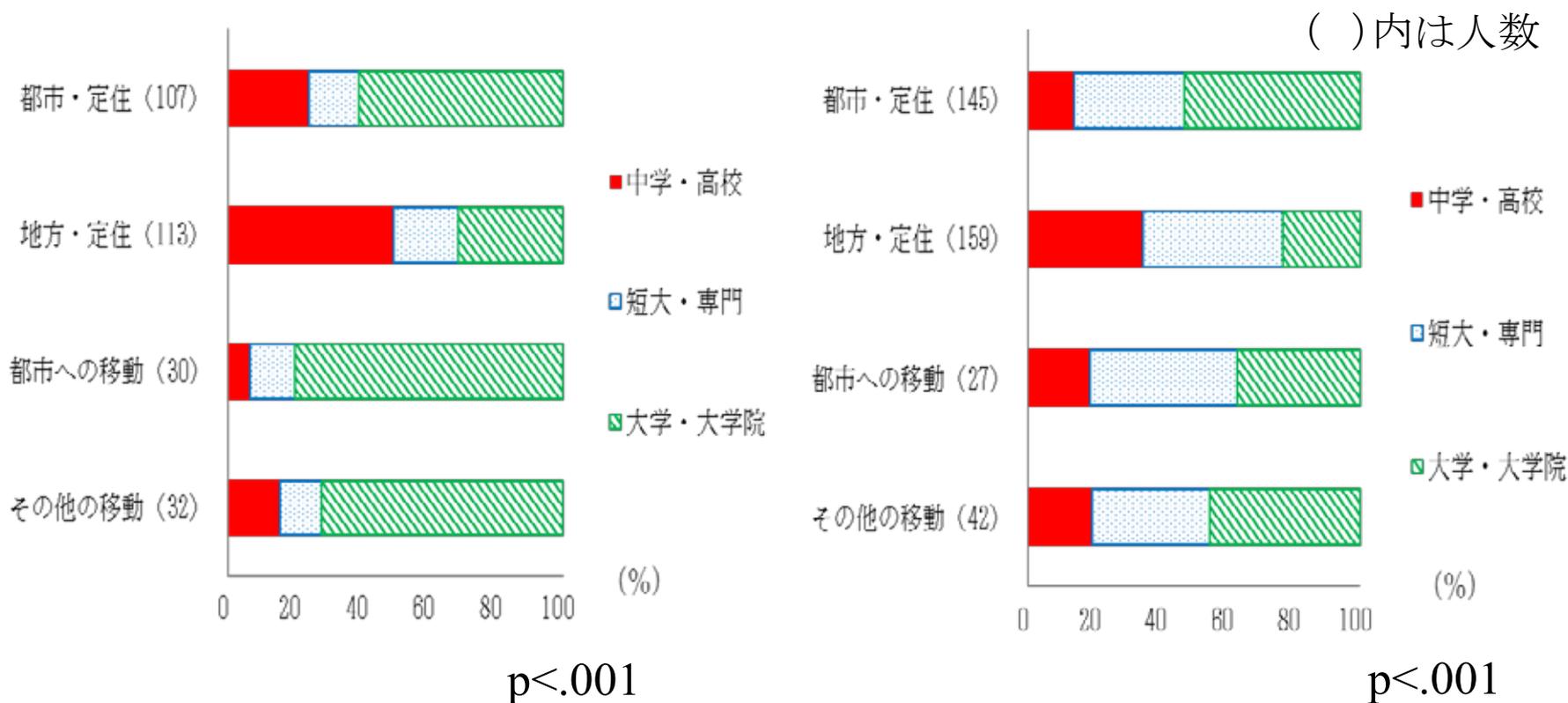
地域移動者と定住者

図9 「その他の移動」の詳細



地域移動者と定住者

図10 地域移動×学歴(左:男性/右:女性)



男女とも「地方・定住」とそれ以外で顕著な違い
 女性の「都市への移動」で「短大・専門」率が高い

地域移動者と定住者

表2 地域移動・学歴の人数(左:男性/右:女性)

	高卒以下	高卒超		高卒以下	高卒超
都市・定住	26	81	都市圏・定住	20	125
地方・定住	56	57	地方・定住	55	104
都市への移動	2	28	都市圏への移動	5	22
その他の移動	5	27	その他の移動	8	34

男女とも「高卒以下」では地域移動経験者が少ない
学歴を踏まえた地域類型=6つ

都市・定住・高卒以下/地方・定住・高卒以下

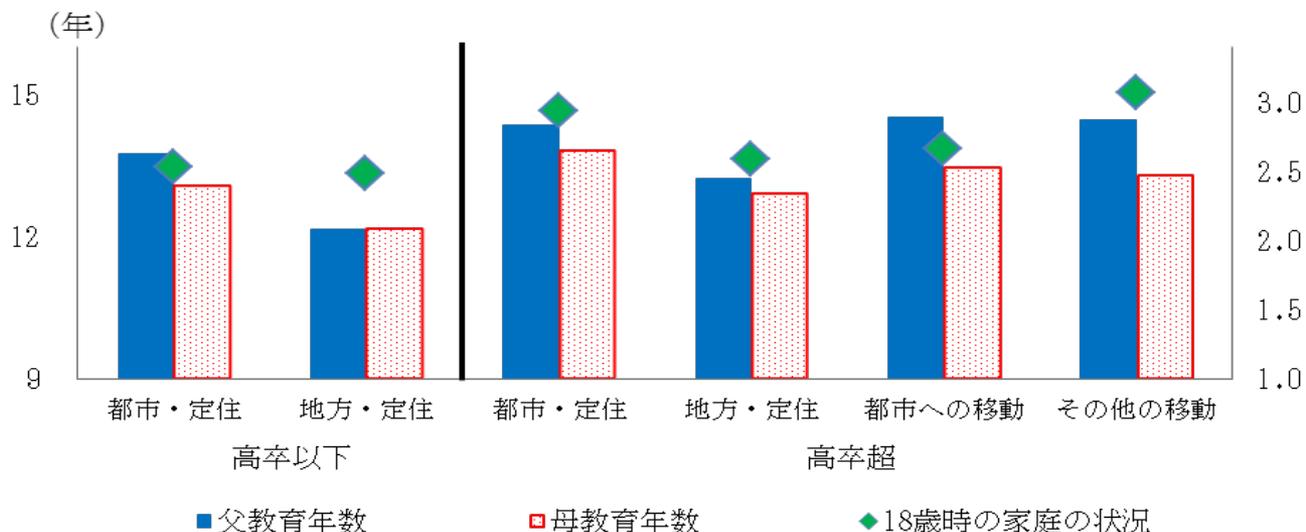
都市・定住・高卒超/地方・定住・高卒超

都市への移動・高卒超/その他の移動・高卒超

地域移動者と定住者

図11 地域移動・学歴×親学歴／18歳時のくらし向き(男性)

(主軸:教育年数／第2軸:4=ゆとりがある～1=貧しい)



父教育年数:p<.001 母教育年数:p<.001 くらし向き:p<.001

高卒超:

「都市・定住」&「その他の移動」=良好なくらし向き(18歳時)

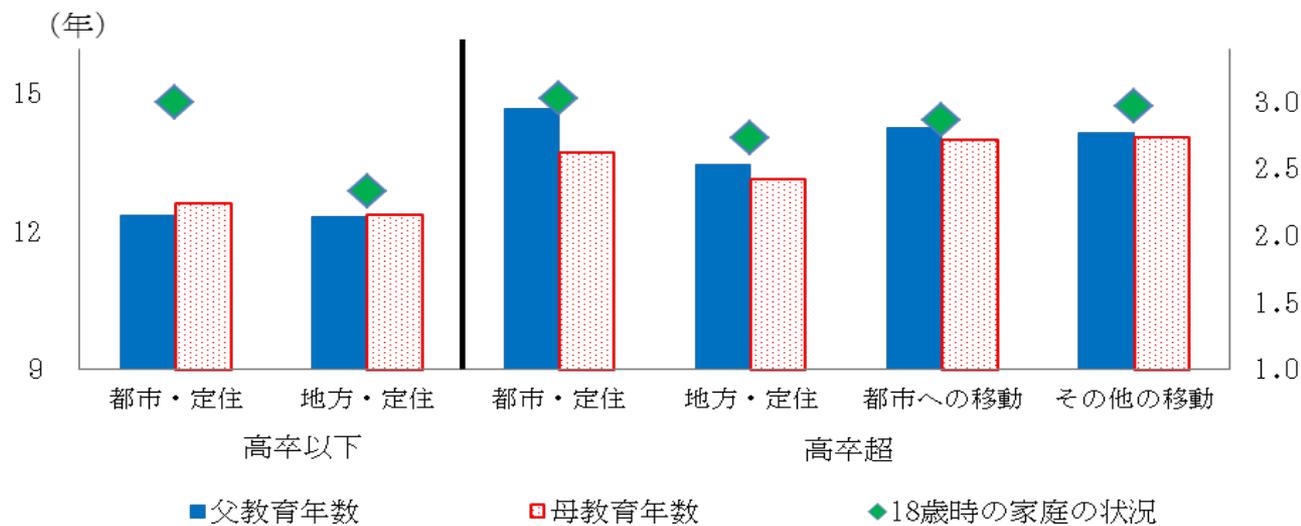
「地方・定住」=親教育年数が低い

高卒以下:

「地方・定住」=親教育年数が低い

地域移動者と定住者

図12 地域移動・学歴×親学歴／18歳時の暮らし向き(女性)
 (主軸:教育年数／第2軸:4=ゆとりがある～1=貧しい)



父教育年数:p<.001 母教育年数:p<.001 暮らし向き:p<.001

高卒超:

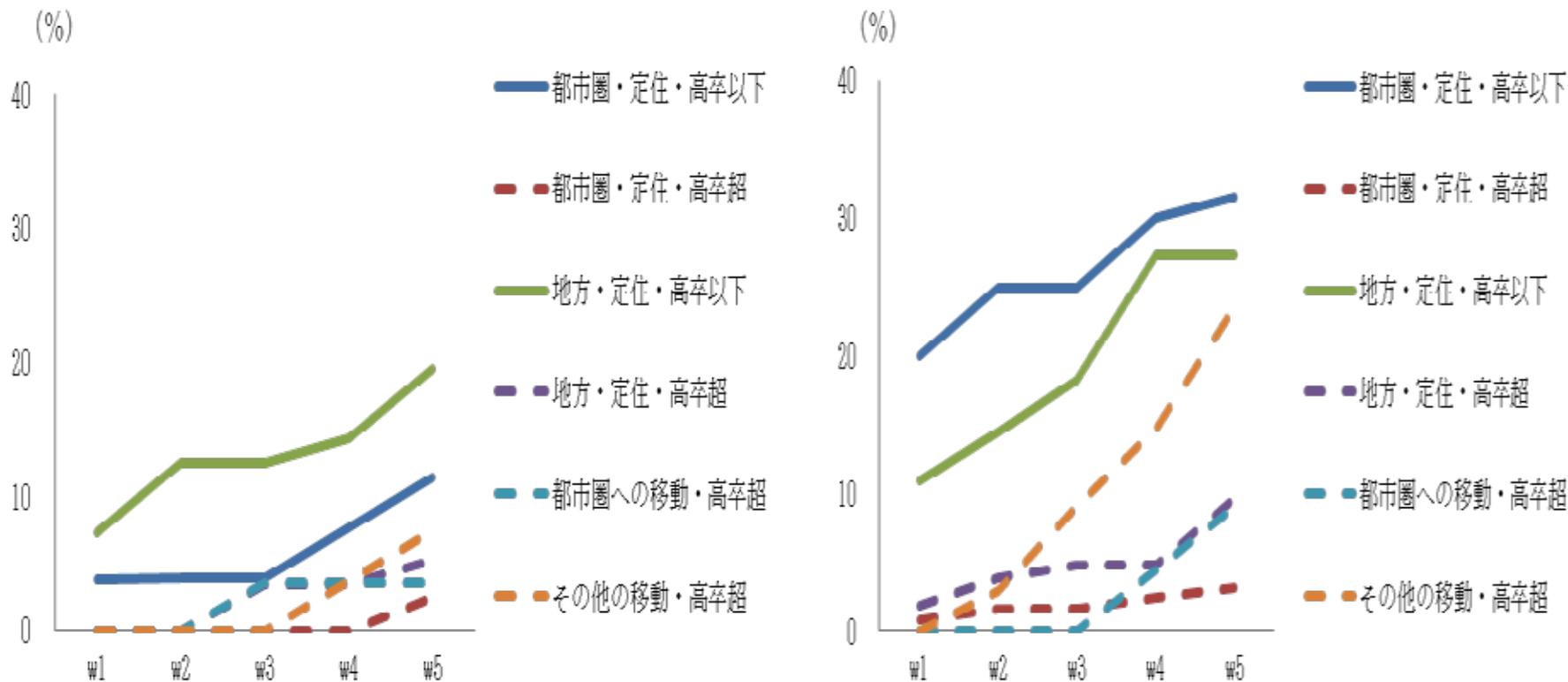
「地方・定住」=親教育年数が低い／暮らし向きの値が低い

高卒以下:

「地方・定住」=暮らし向きの値が低い

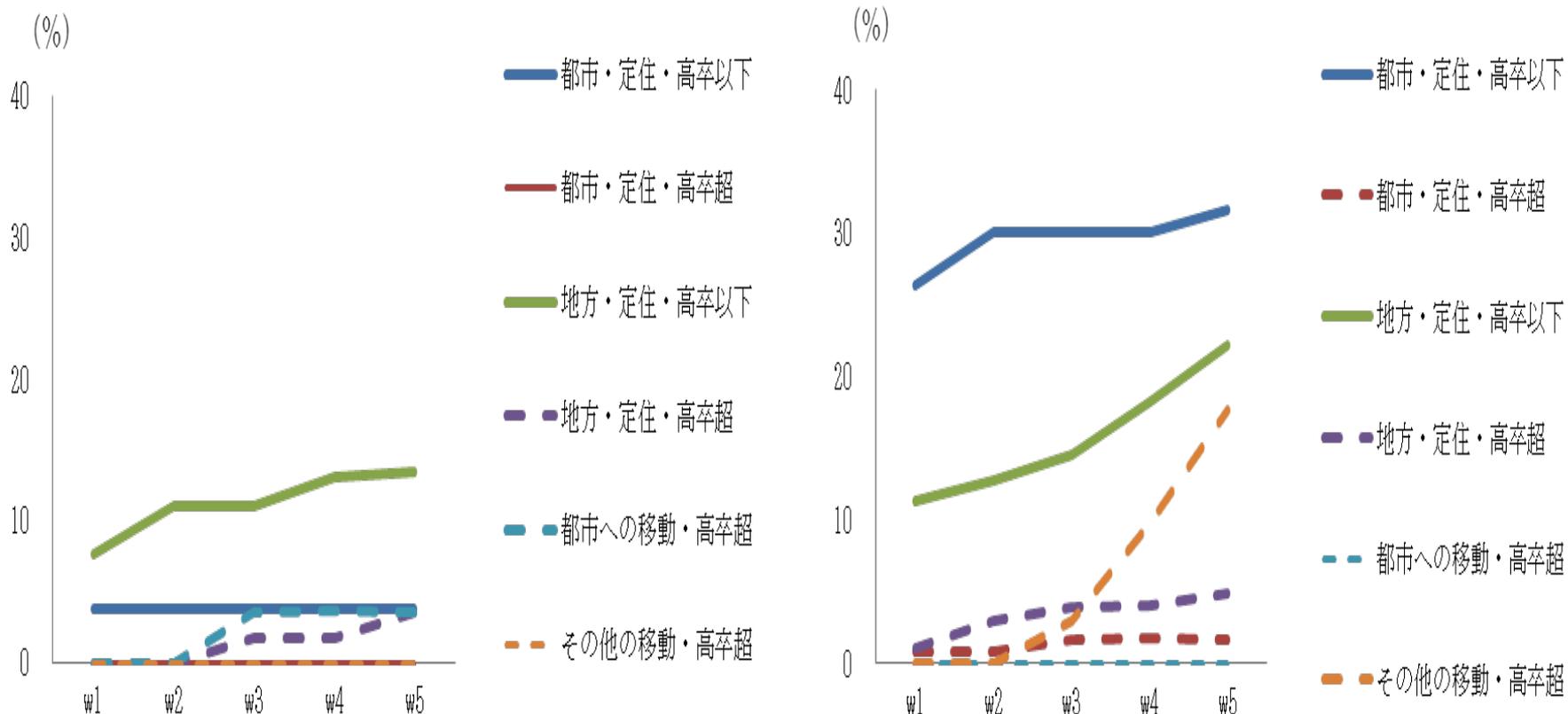
地域移動者と定住者

図13 地域移動・学歴×結婚経験率(左:男性/右:女性)



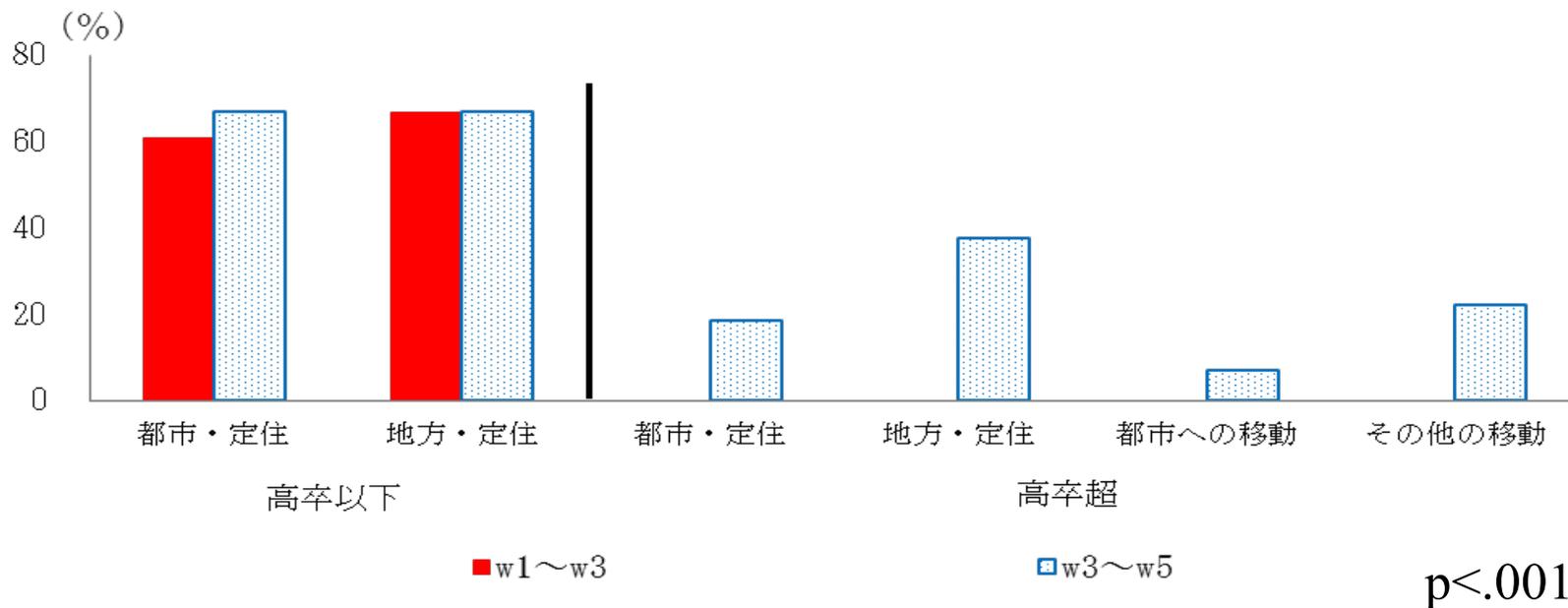
地域移動者と定住者

図14 地域移動・学歴×子どもの有無(左:男性/右:女性)



地域移動者と定住者

図15 無業・非正規雇用の割合(6ヶ月以上の割合:男性)



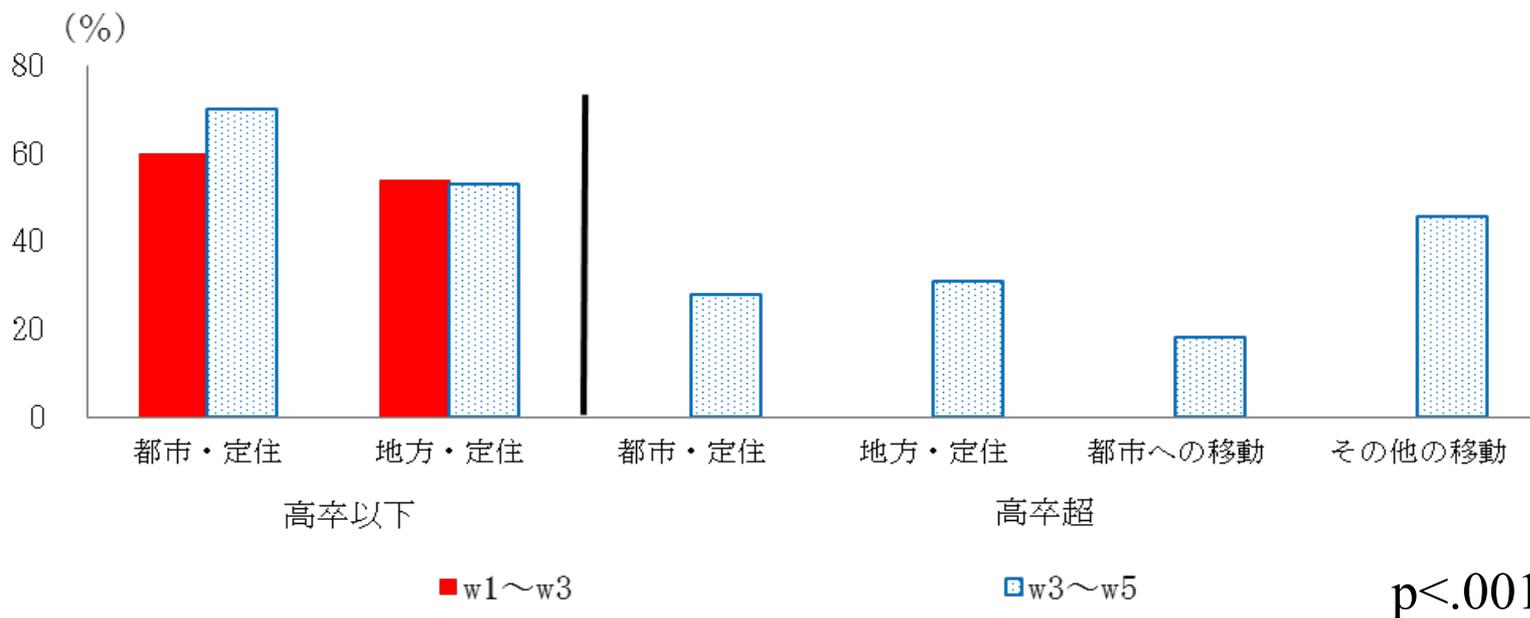
※w1~w3:2007年10月~2009年9月 計24ヶ月
w3~w5:2009年10月~2011年10月 計24ヶ月

学歴による違い

高卒超だけでみると「地方・定住」で割合が高い(5%水準で有意)

地域移動者と定住者

図16 無業・非正規雇用の割合(6ヶ月以上の割合:女性)

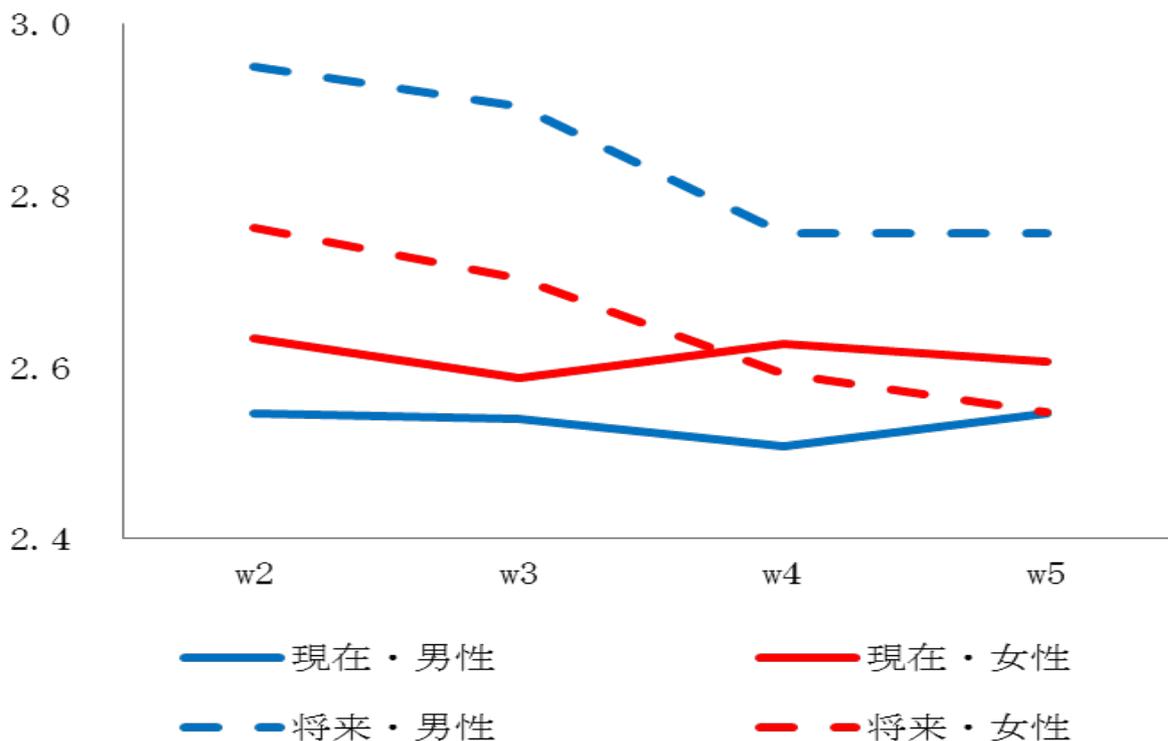


学歴による違い

高卒超だけでみると「その他の移動」で割合が高い(10%水準で有意)
未婚女性に限定しても大きく変わらない

くらし向き(現在－将来)と結婚の見通し

図17 現在のくらし向き×将来のくらし向き(25歳時)



現在のくらし向き＝男女とも大きな変化なし
将来のくらし向き

男性＝w2～w4で減少

女性＝一貫して減少

くらし向き(現在－将来)と結婚の見通し

表3 現在のくらし向き×将来のくらし向き(25歳時)

		くらし向き (将来)	くらし向き (現在)			
			余裕あり	余裕なし		
男性	ゆとりあり		71.7	28.3	p<.001	
	ゆとりなし		49.6	50.4		
女性	ゆとりあり		55.2	44.8		n.s.
	ゆとりなし		53.3	46.7		

表4 現在のくらし向きと将来のくらし向きの相関

	w2	w3	w4	w5	
男性	.099	.151 *	.135 *	.211 **	**:p<.01 *:p<.05
(未婚)	.113	.152 *	.158 *	.220 **	
女性	.136 **	.109 *	.043	.115 *	
(未婚)	.150 **	.138 *	.103	.092	

男性＝現在－将来のくらし向きの関係が強まる

女性(未婚)＝現在－将来のくらし向きの関係が弱まる

くらし向き(現在－将来)と結婚の見通し

図18 現在のくらし向き×将来のくらし向き

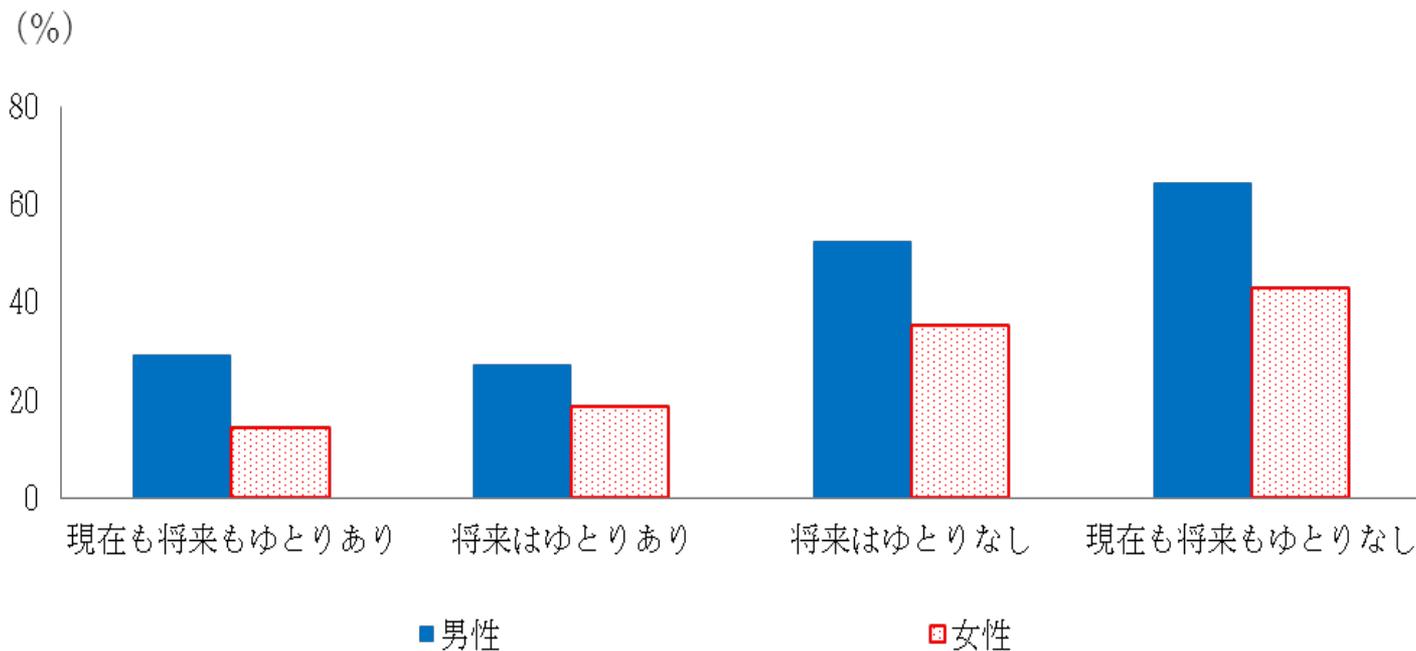
		くらし向き (将来)	
		余裕あり	余裕なし
くらし向き (現在)	ゆとりあり	現在も将来もゆとりあり	将来はゆとりなし
	ゆとりなし	将来はゆとりあり	現在も将来もゆとりなし

結婚の見通し

＝「10年後に結婚している」に「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」と回答

くらし向き(現在-将来)と結婚の見通し

図19 くらし向き(現在-将来)×結婚の見通し(25歳時:未婚者)

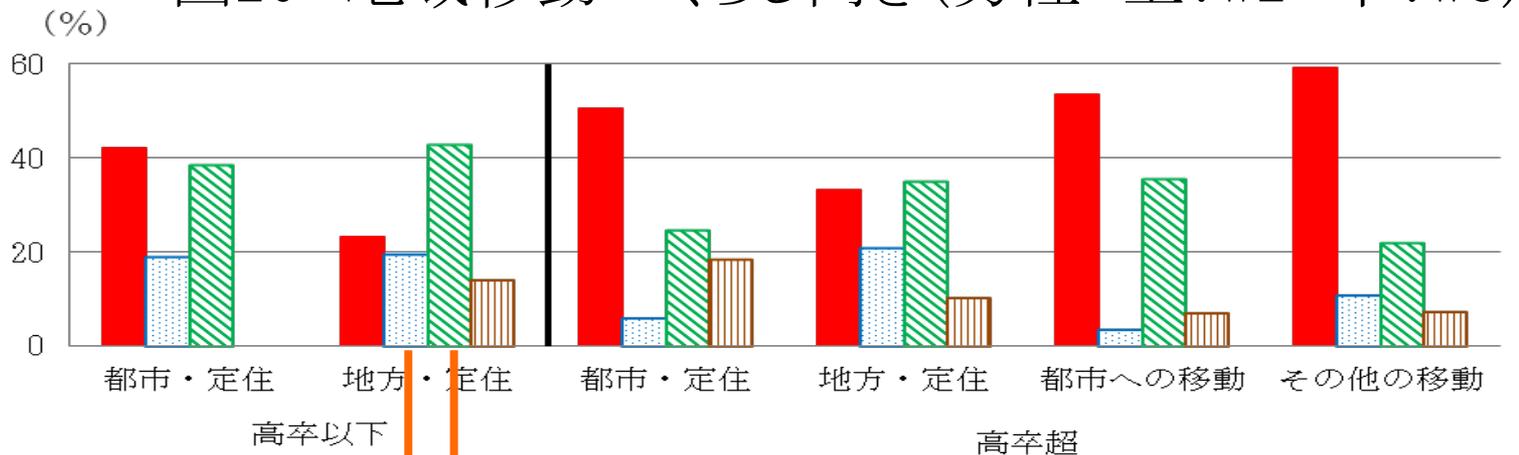


男性:p<.001 女性:p<.001

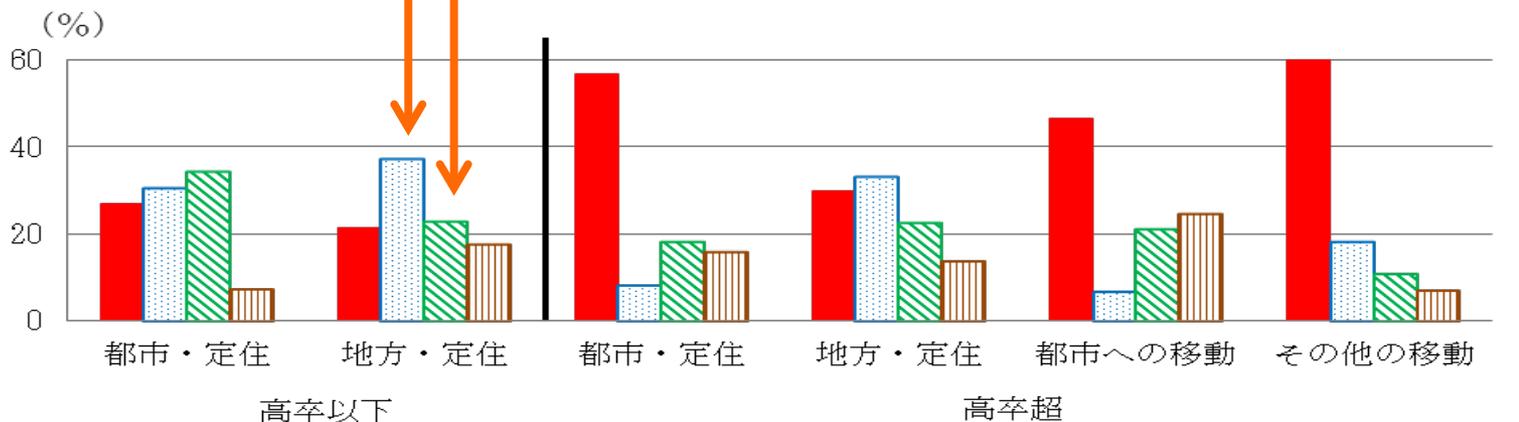
くらし向き(将来)が結婚への見通しに影響
→くらし向き(将来)の見通しをよくすることが課題

地域移動とくらし向き(現在－将来)の関係

図20 地域移動×くらし向き(男性 上:w2 下:w5)



p<.01



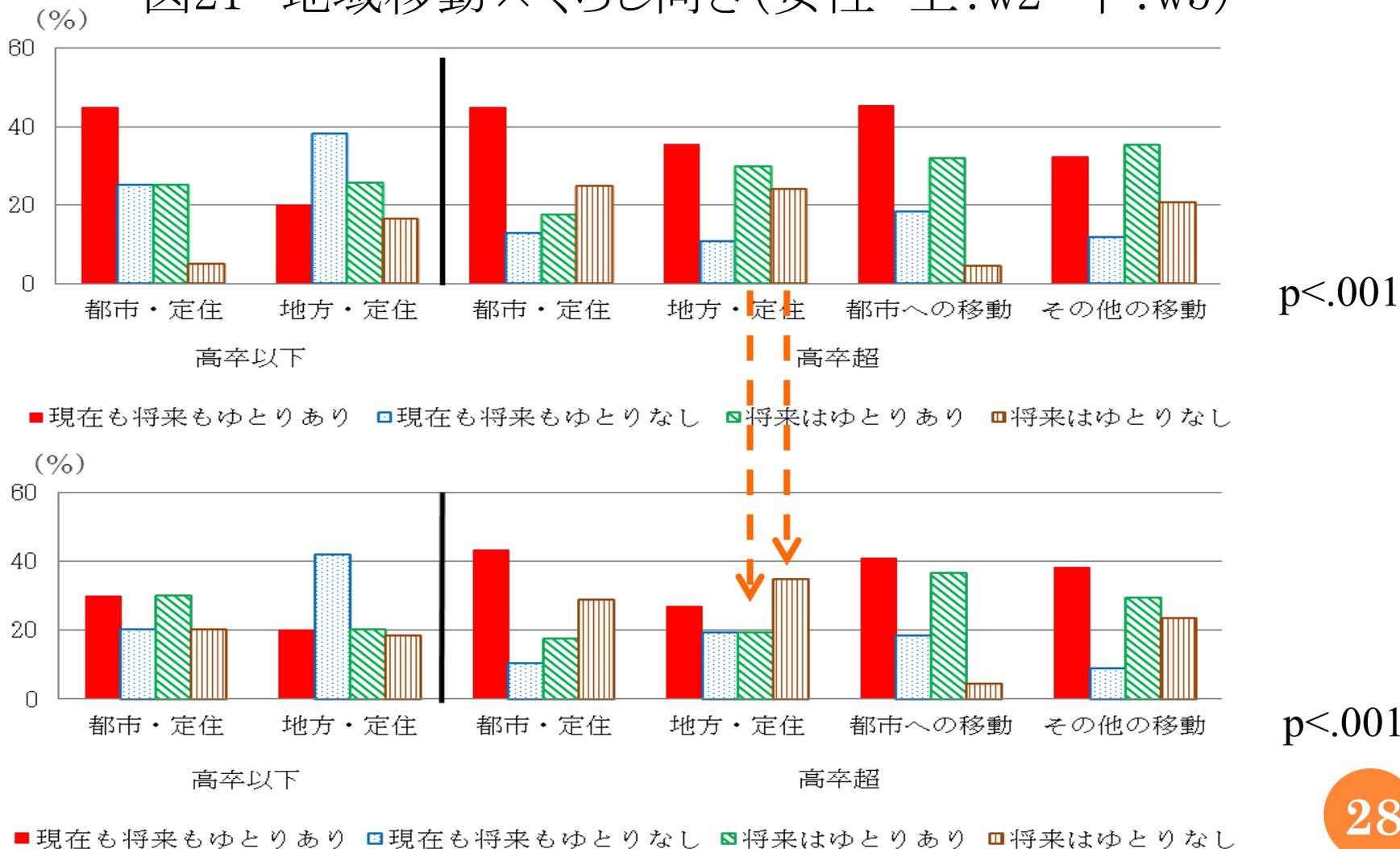
p<.001

■現在も将来もゆとりあり □現在も将来もゆとりなし ■将来はゆとりあり □将来はゆとりなし

※図中の矢印(実線)は5%水準で有意な変化を示す

地域移動とくらし向き(現在－将来)の関係

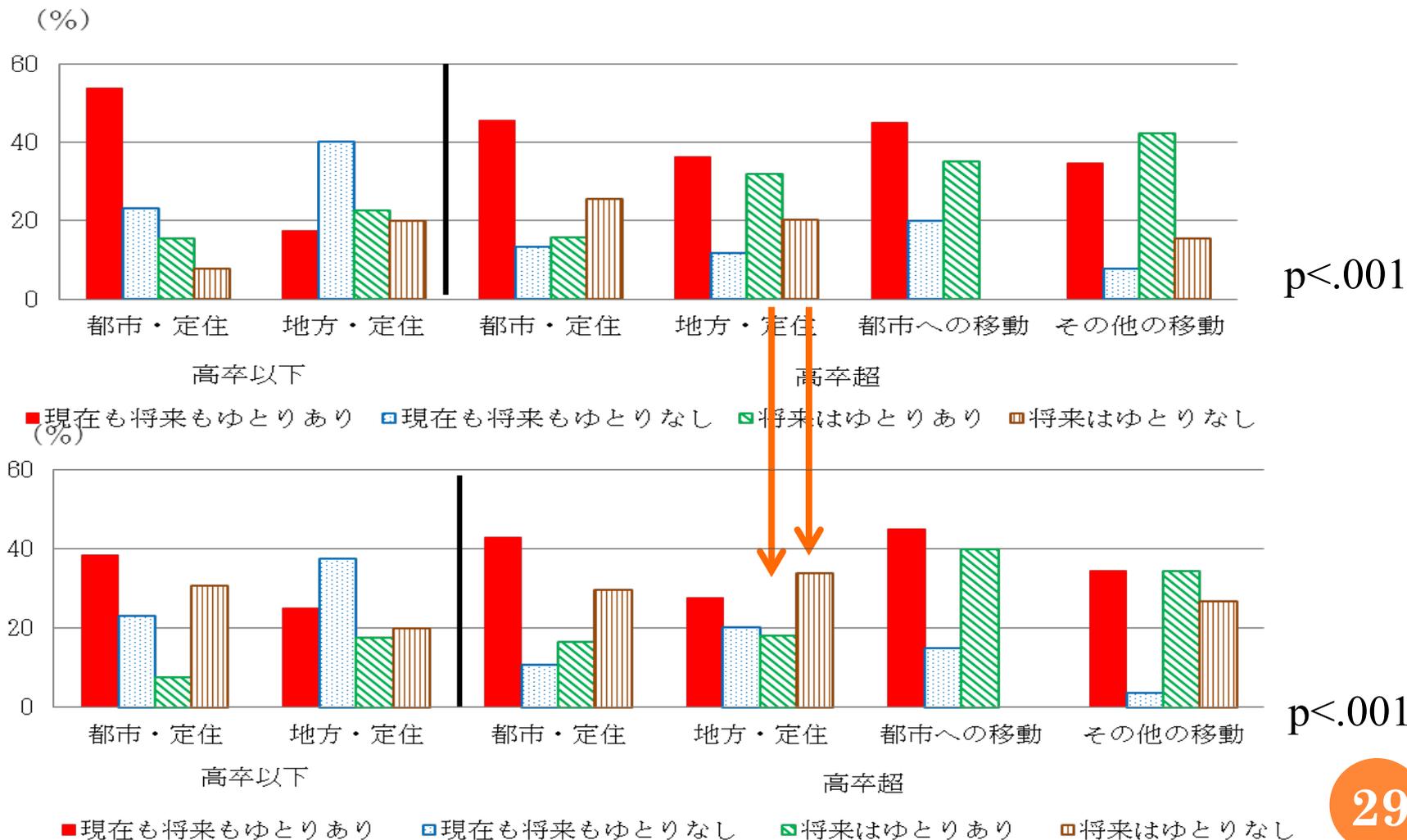
図21 地域移動×くらし向き(女性 上:w2 下:w5)



※図中の矢印(点線)は10%水準で有意な変化を示す

地域移動とくらし向き(現在-将来)の関係

図22 地域移動×くらし向き(未婚女性 上:w2 下:w5)



※図中の矢印(実線)は5%水準で有意な変化を示す

くらし向き(現在－将来)の「集中」と「分散」

●男性

特定の層(高学歴「都市・定住」と移動)における「集中」

＝現在も将来もくらし向きが安定

この層は「豊かな」家庭環境(図11)／雇用状況も安定(図15)

※「その他の移動」7割

＝都市を経由(都市出身／都市への移動を一度経験)

「地方・定住」(高卒以下／高卒超)

現在も将来もくらし向きが不安定

とくに高卒以下では「将来はゆとりあり」が減少し「現在も将来もゆとりなし」が増加

●女性

高学歴「都市・定住」

現在も将来もくらし向きが安定＝多数(ただし、男性と比べると多くはない)

高学歴移動

＝現在も将来もくらし向きが安定／将来のくらし向きは安定

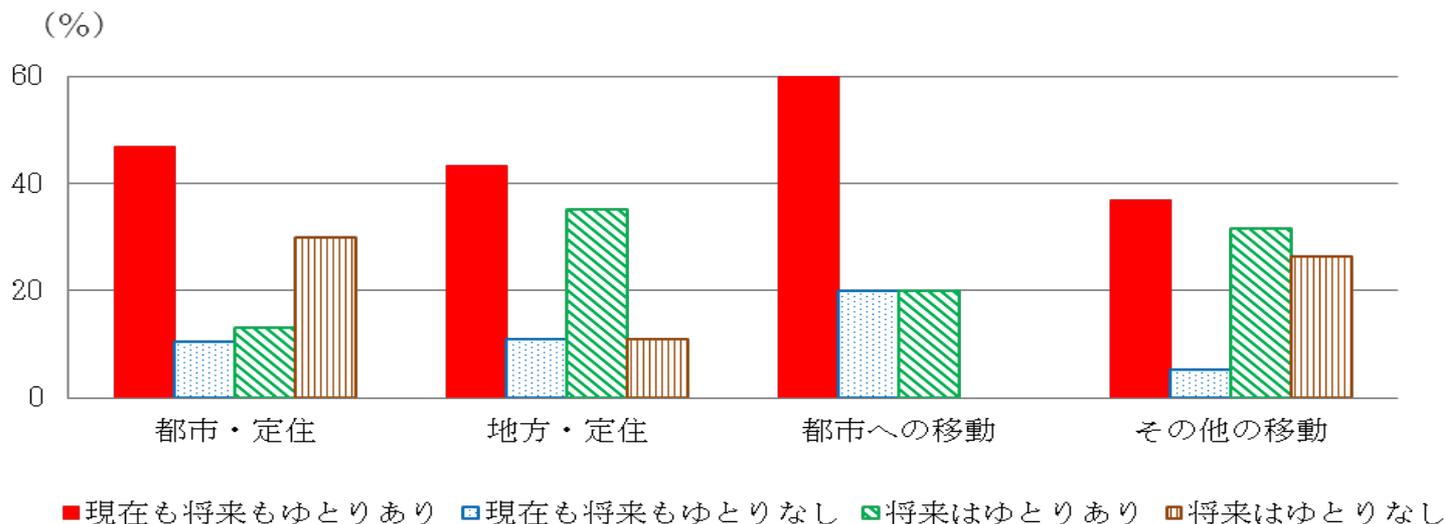
「地方・定住」

高卒以下＝現在も将来もくらし向きは不安定

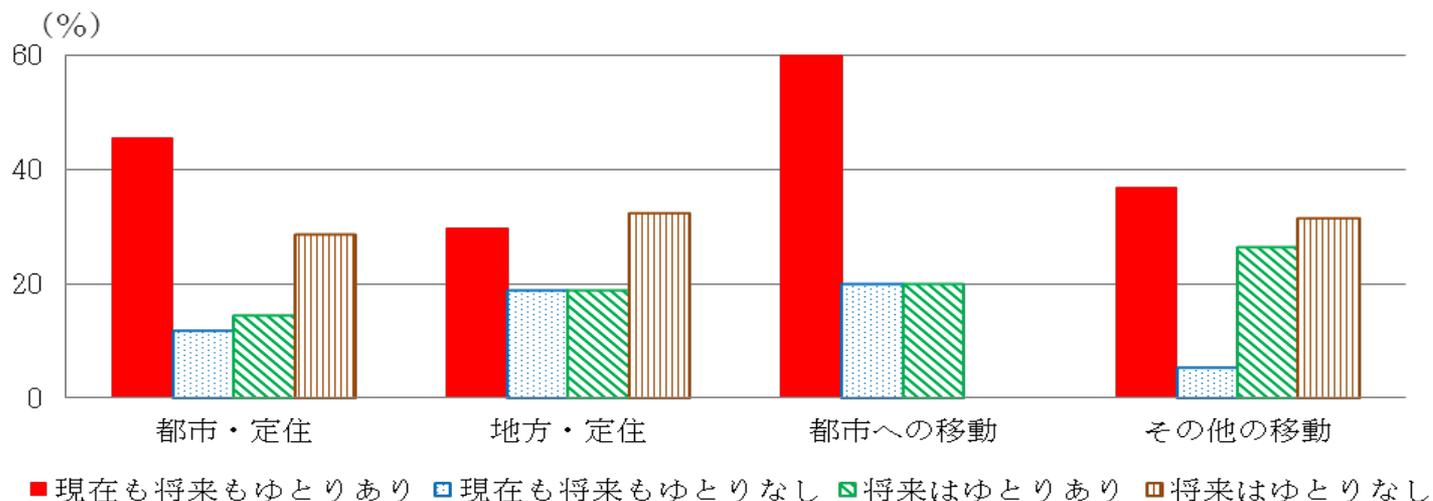
高卒超＝将来のくらし向きが不安定化

地域移動とくらし向き(現在－将来)の関係

付図1 地域移動×くらし向き(大卒女性 上:w2 下:w5)



p<.01



p<.05

「選択と集中」の未来予想図

●男性

「豊かな」層(高学歴「都市・定住」層と移動層)

安定した雇用状況－安定したくらし向き(現在－将来)

→結婚への見通し○

「地方・定住」層＝不安定な雇用状況－不安定なくらし向き

→結婚への見通し△

●女性

「豊かな」層(高学歴「都市・定住」層と移動層)

安定したくらし向き

「地方定住」

高卒以下＝一貫して不安定なくらし向き

高卒超＝不安定化する将来

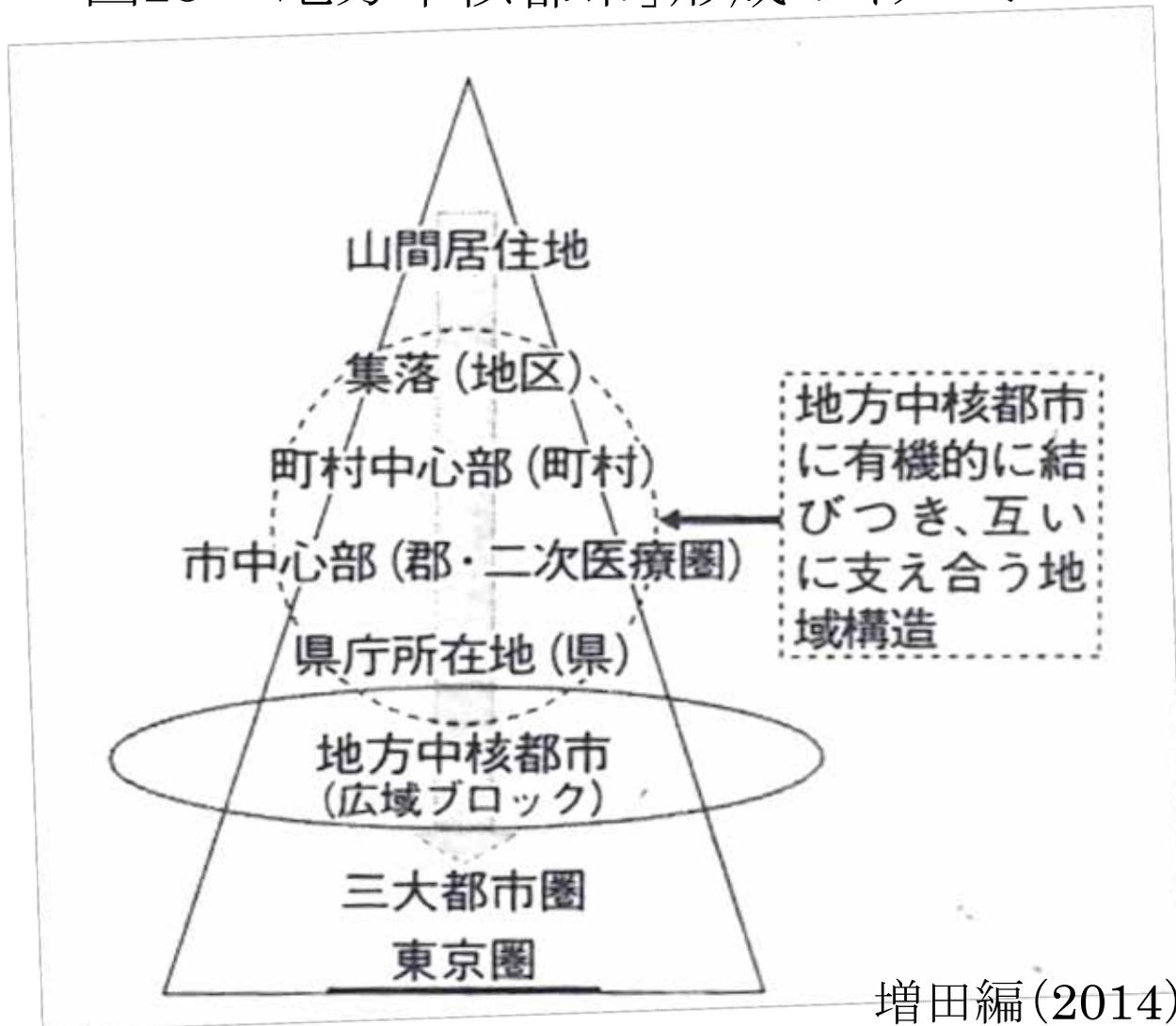
「選択と集中」

＝「地方中核都市」の形成は若者のくらし向きを変えるのか？？

「地方中核都市」＝「小東京」化？？

「選択と集中」の未来予想図

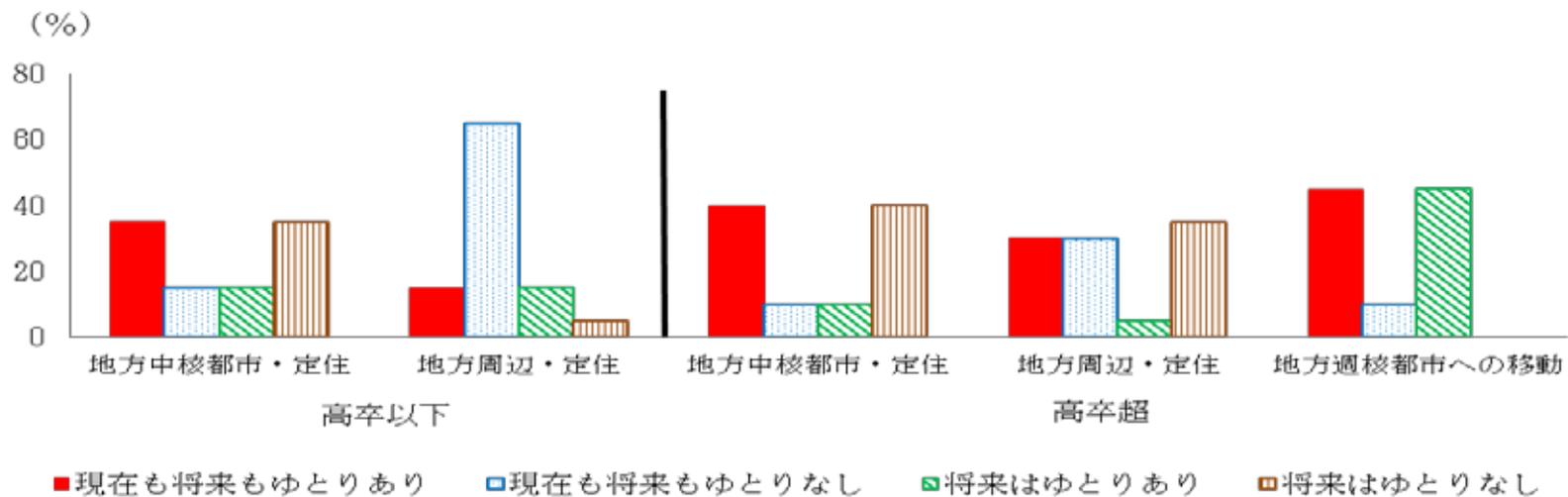
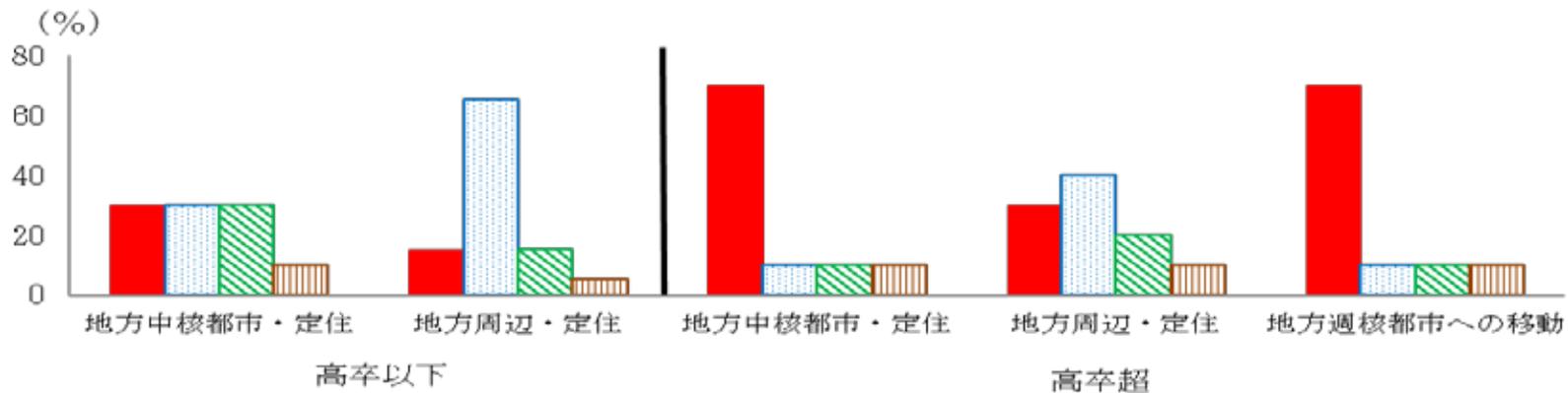
図23 「地方中核都市」形成のイメージ



増田編(2014)、p.48

「選択と集中」の未来予想図

図24 地域移動×暮らし向き(現在-将来)
(上:男性 下:女性)



「選択と集中」の未来予想図

●効果

地方中核都市の一部の若者(高学歴層)は結婚への見通しUP?

(地方中核都市への移動者/地方中核都市・定住の一部)

「魅力のある雇用機会」の創出

※ただし、女性への効果は限定的(「将来はゆとりなし」が一定数存在)

●副作用

地方周辺の若者たちは結婚への見通しが不安定化

とくに・・・

高卒以下・男性/高卒超・女性＝不安定化する将来

「選択と集中」

＝一定の効果をもたらすが、副作用が潜む??

効果<副作用にならないか??

<参考文献>

本田由紀 2014、『もじれる社会－戦後日本型循環モデルを超えて』ちくま新書.

乾彰夫 2000、「<戦後的青年期>の解体－青年期研究の今日的課題」『教育』50(3)、
pp.15-22.

岩澤美帆 2008、「初婚・離婚の動向と出生率への影響」『人口問題研究』64(4)、
pp.19-33.

増田寛也編 2014、『地方消滅』中公新書.

増田寛也・富山和彦 2015、『地方消滅－創生戦略編』中公新書.

中村高康 2014、「『若者の教育とキャリア形成に関する調査』の概要」『「若者の教育と
キャリア形成に関する調査」最終調査結果報告書』pp.8-25.

佐々木尚之 2012、「不確実な時代の結婚－JGSSライフコース調査による潜在的稼得
力の影響の検証」『家族社会学研究』24(2)、pp.152-164.

筒井淳也 2015、『仕事と家族－日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中公新書.

山田昌弘 2005、『迷走する家族－戦後家族モデルの形成と崩壊』有斐閣.

山下祐介 2014、『地方消滅の罨－「増田レポート」と人口減少社会の正体』ちくま新書.